

## 檀原市財政危機宣言の解除について

私が、2年前の令和3年3月に檀原市財政危機を宣言したのは、新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な歳入不足が見込まれ、令和3年度当初予算を編成するために、市の貯金にあたる財政調整基金を約13億円も繰入れなければならず、早ければ令和3年度中にも貯金が枯渇してしまうという極めて厳しい財政状況に強い危機感を抱いたためです。

宣言後、市民の皆様の命と暮らしを守り、将来世代への責任を果たすため、職員一丸となって、危機的状況からの早期脱却を目指し、徹底した行財政改革に取り組んでまいりました。また、コロナ禍に対応するための経費が増大することが懸念されたことから、支出の抑制に努めてまいりました。

その結果、令和2年度と3年度は財政調整基金を取り崩さずに決算を迎えることができ、令和4年度末の財政調整基金残高については30億円以上を確保できる見込みとなりました。

また、令和5年度も基金に依存しない当初予算編成を念頭に取り組み、結果的には光熱費の高騰の影響等による歳出増加に財政調整基金の繰入れて対応したものの、繰入額は前年度より1億円以上少ない約3.6億円におさえることができました。

私が目指す持続可能で健全な財政運営とは、毎年度の予算編成において基金に依存することなく、少しでも基金を積み立てられる状態です。現在、その状態に近づけることができていると判断し、令和4年度末をもって「財政危機宣言」を解除することといたします。

しかし、本市の財政がまだまだ予断を許さない厳しい状況にあることに変わりはありません。本市の将来を見据え、持続可能で健全な財政運営ができるよう、歳入確保・歳出削減を中心とした行財政改革を断行していく必要があります。社会経済情勢の変化を見据え、市民の皆様の命と暮らし、地域経済を守り、皆様が必要とする施策が行えるよう、職員一丸となって一層気を引き締め、緊張感を持って取り組んでまいります。

皆様のご協力にあらためて深く感謝を申し上げますとともに、引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月3日

檀原市長 亀田 忠彦